

XXVI. 南アフリカ

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○社会構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総人口：5,742 万人 (2018 年 IMF 推計) ○経済環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たり GDP：6,459 ドル (2018 年 IMF 推計) ・ 実質 GDP 成長率：1.5% (2018 年 IMF 推計) ・ 1 ドル=13.16 ランド/1 ランド=8.44 円(2018/7/31) 	
2. 金融制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> <金融制度> ○銀行業態（機関数、総資産シェア、根拠法） <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業銀行 <ul style="list-style-type: none"> - 国内銀行（18、93%、Banks Act） - 外国銀行の支店（15、5.8%、Banks Act） - 相互銀行（3、0.1%、Mutual Banks Act、Mutual Banks Amendment Act） - ポストバンク（1、0.25%、South African Postbank limited Act） - 協同組合（33、0.008%、Co-operative Banks Act） ○預金保険制度：未導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの外国銀行も事業を展開。南アフリカは、アフリカ大陸における一大金融センターの地位を占めている。 ○全国の郵便局を通じてサービスを提供するポストバンクが、これまで銀行口座を保有していなかった階層にも金融サービスを提供している。
3. ポストバンクの現況	<ul style="list-style-type: none"> ○郵便貯金制度・経営形態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2010 年に南アフリカポストバンク会社法が發布され、ポストバンクは南アフリカ郵政事業会社の一部門から、独立した法人になることが規定された。 ・ 2017 年 7 月にポストバンクは SARB の最終審査のための申請書を提出しておりその後、1 年以上が経過したものの、いまだに銀行ライセンスの承認には至っていない。 ○金融サービス提供の形態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2010 年南アフリカポストバンク会社法で、銀行サービスのユニバーサルかつ容易なアクセスを促進することを規定。 ○預金業務と送金・決済業務 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国1,520の郵便局と702の簡易局において金融サービスを提供。 ○預金商品には、大別して定期貯金と貯蓄貯金の2つがある。 ○3種のデビットカードを提供。

<p>4. 金融セクターにおけるリテール金融機関の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○世界銀行の調査（2018年）によると、金融機関に口座を持つ成人の割合は、全成人で69.2%、サハラ砂漠以南のアフリカ各国では、ケニア（81.6%）、ナミビア（80.6%）に次いで高い。 ○かつて銀行は中高所得者層が利用するものであり、国民の過半は銀行口座も保有していなかった。2004年に「金融セクター憲章」という一種の社会協約が結ばれ、金融包摂の問題にも対処していくこととなった。 ○一時、600万口座に達した低所得者向けMzansi口座だが、併売禁止規定や費用対効果の面から、大手銀行はMzansi口座の募集を停止。採算性が見込める顧客を中心に自社銀行口座への移行を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サハラ砂漠以南のアフリカ各国で、金融口座の保有者が全成人で65%以上は、ケニアと、ナミビア、南アフリカである。 ○当初4大銀行は、ポストバンクとともに低所得者向けMzansi口座の普及を推進したが、今では募集を停止。既存口座の半数近くを自行のエントリーレベルの口座商品に移行。
<p>5. 最近の金融動向と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○景気減速による失業率の上昇などもあり、マイクロファイナンスの残高は漸減傾向。返済に窮する低所得者の負担を軽減するため、政府主導で債務の減免や金利引き下げを行う法案が審議中。 ○南アフリカでは携帯電話が広く普及。2017年末の携帯電話契約数は8940万件と人口を大きく上回る。携帯電話の普及に伴い、モバイルバンキングの利用も拡大。人口の2割が携帯電話を通じた送金の経験あり。 ○南アフリカのEC市場は、2017年時点で23億ドル。国民の3割にあたる1700万人が利用する一方、一人あたりの年間利用額は136ドルにとどまる。決済システムへの信頼確保が普及のカギ。 ○南アフリカでもフィンテックの存在感増す。南アフリカ準備銀行はフィンテック室を新設、フィンテックが伝統的な銀行業務に与える影響などについて研究を開始。 ○郵貯の経営形態の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2013年9月に、ポストバンクは銀行免許を申請。 ・ 南アフリカ郵政事業会社（South Africa Post Office、SAPO）では、その長期戦略目標の一つに「機能の統合整理（Consolidation of Functions）」を掲げており、その一環としてポストバンク（Postbank）の法人化を目指している。（2017年7月時点では、ポストバンクから南アフリカ準備銀行（SARB）へ銀行ライセンスを申請しているが、政府の手続きが遅れており、い 	<ul style="list-style-type: none"> ○マイクロファイナンスは、2013年をピークに伸び悩み。 ○携帯電話の普及でモバイルバンキングの利用者数も増加。人口の2割が携帯電話を通じた送金経験あり。 ○南アフリカ準備銀行は存在感増すフィンテックの影響を見極めるため、フィンテック室を新設。仮想通貨事業者に対する新規制を公表。

	<p>まだに銀行ライセンスの承認には至っていない。財務省によると、審査は順調に進んでおり、2019年3月までには承認され、ポストバンクの商業銀行への移行が完了する見通しとのことである。</p>	
--	---	--